

令和 7 年度 学校経営計画

1 学校教育目標

校訓である五稜の精神「真・徳・美・知・体」に則った調和のある豊かな人間性の育成を教育目標として掲げ、その達成のために、次の4点を基本方針とする。

- (1) 主体的に学びに向かう力を育成します。
- (2) 地域連携やボランティア活動を通じて、地域や社会に貢献できる人材を育成します。
- (3) 芸術・文化やスポーツに親しみ、心身ともに健康な生徒を育成します。
- (4) 国際交流や地域社会との交流を通じて、コミュニケーション能力を育成します。

2 学校の特色

本校は、今年度で創立 98 年を迎える、普通科と商業科からなる総合制の高校である。生徒の通学区域は、射水市が最も多く、次いで高岡市、その他の市となっている。生徒の気質は明るく素直であり、学習活動、部活動、生徒会活動などの実践に真面目に取り組んでいる。また、本校は、オーストラリアのノーブルパーク校との姉妹校提携により、これまで 21 回の相互訪問を実施しており、国際交流推進のため、射水市とも積極的に連携を図っている。

平成25年度普通科入学生より、2年次から文系・英語系・理系の類型別選択制を導入した。普通科では、多様な進路に応じた個を尊重した教育を行っている。また、SDGs学習を通して地域の課題解決や地域の魅力発信を目指した探究活動に積極的に取り組んでいる。英語系では特色ある学習や行事をとおして、豊かな国際感覚と優れたコミュニケーション能力を兼ね備えた人材の育成を図っている。商業科においては、資格取得を推進するとともに、社会で役立つ力を重視した教育を行っている。地域の実情や課題に対する解決策を考察し、地域社会の活性化に向けて主体的に行動する態度の育成に努めている。

3 学校の現状と課題

本校は「五稜の精神」に基づく人づくりを目指しており、教育活動全体をとおして、意欲をもって主体的に学び、生き生きと学校生活に取り組む生徒の育成に努めている。

学習面では、学習指導の充実や家庭での学習習慣の定着を重視している。教員の授業技術の向上を図ることにより、生徒の主体的な学習への取り組みを進め、理解を深める必要がある。

進路指導面では、面接を重視し、一人ひとりに応じた支援を行うことで、早期に具体的な進路目標を設定し、目標達成に向けた自主的な学びに結びつける必要がある。

生活面では、家庭と連携して、規範意識や時間厳守など基本的生活習慣の定着を図ることによって、自己管理能力を身につけさせることが求められる。

また、生徒の主体性を育てる学校行事や部活動等を推進し、学校生活に意欲をもって積極的に取り組む生徒を育てる必要がある。

4 学校教育計画

項 目		目 標 ・ 方 針 及 び 計 画	
1	学習活動 重点 1	目標	○生徒の学習意欲を喚起する授業を研究し、主体的に学習に取り組む態度の育成を目指す。 ○社会の変化や国際化・情報化に対応するため、豊かな国際感覚と優れたコミュニケーション能力、情報処理能力を備えた人材を育成するとともに、個性を生かした教育の充実に努める。
		計画	○グループワーク、ディスカッション、ペアワーク等アクティブ・ラーニングの視点を取り入れたり、タブレットなどのICT機器を取り入れたりすることで、思考力・判断力・表現力を育てるための指導法、協働して学ぶ態度を育てる指導法を研究する。 ○<u>観点別学習達成度目標を教員と生徒が共有して、授業を中心とした学習活動を行うことで生徒の学習改善につなげ、PDCA サイクルを確立させ、生徒が主体的に学ぶ力を育成する。</u> ○普通科英語系の課題研究型授業やオーストラリアの姉妹校のノーブルパークの生徒との直接交流、英語セミナーなど、各類型で特色ある取り組みを行う。
2	学校生活 重点 2	目標	○生徒一人ひとりの人格を尊重しながら、規範意識の向上やマナーを遵守する態度を養い、社会に適応できる心豊かな生徒を育成する。 ○健康診断や教育相談をとおして、生徒の心身の健康保持・増進を図るとともに、自主的健康管理能力を育成する。
		計画	○<u>生徒指導方針について、生徒・保護者・教職員の共通理解を図ることで生徒の規範意識の向上と基本的生活習慣の確立を目指す。</u> ○<u>通信機器の使い方、あいさつ、交通ルールの遵守等に関して、生徒が主体となり取り組む。</u> ○交通安全指導や携帯電話・インターネットの利用等のマナー講習、薬物乱用防止に関する講習をとおして、危機管理意識を養う。 ○保護者と連携しながら、保健指導の充実や生活習慣の改善に努める。 ○生徒委員会の自主的・積極的活動を推進し、健康と美化意識の向上と行動の習慣化を図る。
3	特別活動 重点 3	目標	○ホームルーム活動、学校行事、生徒会活動、部活動、ボランティア活動などをとおして、学校生活が一層充実したものになるよう働きかけるとともに、これらの活動が、生徒が自ら「学び」、自ら「鍛える」場となるよう工夫する。 ○学年や教科との連携により、図書館利用を促進し、生徒の読書量の増加を図る。
		計画	○<u>生徒の主体的な活動と部活動の充実を図る。</u> ○<u>生活規範について統一ホームルームで話し合うなど、クラスや学年全体で考えることで、規範意識の醸成に努める。</u> ○読書活動を継続して行い、読書意欲を高める。また<u>教養講座などの委員会活動をとおして生徒の主体性を育成し、読書意識の向上を目指す。</u> ○姉妹校等との交流学习や国際交流をとおして、生徒同士が互いの国の歴史や文化について理解を深める。

項 目		目 標 ・ 方 針 及 び 計 画	
4	進路支援	目標	○生徒が自らの在り方、生き方を考え、主体的に進路を選択することができるように、教育活動全体をとおして計画的、組織的な進路指導を行う。
	重点4	計画	○<u>目的意識の涵養と将来の職業人としての自覚や責任感を高めるためのキャリアガイダンス（職業研究、学部学科研究、模擬授業）や進路講話などを充実させることで、進路意識の高揚を図る。</u> ○<u>担任及び教科担当者が必要に応じて個別面接を実施し、一人一人の生徒に寄り添った進路選択・進路実現を支援する。</u> ○進路指導部を中心とした進路情報や課題等を共有する体制を確立し、個々の生徒の適性にかなった的確な情報を提供するとともに、徹底した個別指導を行い、目標達成を目指す。 ○スタディサブリを活用した学習を充実させ、主体的・意欲的に学習に取り組む体制を整えることで、個別最適の学習を推進する。 ○インターンシップ事業のより効果的な推進を図る。
5	その他	目標	○普通科：地域連携による探究活動の充実。 ○商業科：商業教育の充実
	重点5	計画	普通科 ○<u>地域の課題解決や地域の魅力発信を目指した探究活動をとおして主体的に学ぶ力を養う。</u> ○生徒が地域の商工会議所や地元企業と連携して生の声を聞くことにより、富山県や射水市が抱える課題と現在の取り組みについて理解し、多角的な視野を養う。 ○<u>コーディネーターと連携することにより、教員の負担の軽減を図る。</u> 商業科 ○<u>資格取得を推進するとともに、地域の実情や課題に対する解決策を考察し、地域社会の活性化に向けて主体的に行動する態度を育成する。</u> ○主体的な学びをとおして地域と連携する機会を設ける。

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和7年度 新湊高等学校アクションプラン - 1 -		
重点項目	学習活動	
重点課題	生徒の主体的に学びに向かう力の育成	
現 状	・素直で明るく、真面目に学習に取り組む生徒が多い。知識の習得が中心になりがちで、得た知識を活用して表現することや、クラスメートと協働して学習活動することに苦手意識を持つ生徒が一定数見受けられる。そのため、授業においては「主体的で対話的な深い学び」につながるようにグループワーク、ディスカッション、ペアワーク等を取り入れたり、思考力・判断力・表現力を育てるためにタブレットなどのICT機器を用いたりして授業改善に努めている。また、主体性を持って多様な人々と協働して学ぼうとする態度を育成することにも力を注いでいる。	
達成目標	授業研究の実施 1人1回以上の授業公開と2回以上の 見学（他教科の授業を1回以上見学）	主体的に学習に取り組むことができた と考える生徒の割合
	100%	85%
方 策	・1学期と2学期に授業公開期間を設定し、教員が互いに授業を見学して授業力の向上を目指す。 ・公開授業では生徒の知的好奇心を刺激し、主体的な学びを導くような授業研究に努める。	
	・学期末に学習アンケートを実施し、自身の学習への取り組みについて振り返らせる。また、振り返りを通して今後の学習をどのように改善するかを考える機会とさせる。教員は結果を分析し、生徒がより自発的に、また、自身の成長を実感して学習できるようなしなげづくりに努める。 ・自身の学習習慣の定着、学力の伸長を実感できるように手帳の習慣的な活用を促す。	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状のまま D：後退した）

重 点 項 目	学校生活・特別活動	
重 点 課 題	基本的生活習慣の確立 (1) 時間を守る、身だしなみを整える (2) 規範意識の向上	生徒の主体的な活動とHR活動の充実
現 状	(1) 正当な理由のない遅刻は少なく遅刻常習者も少ない。挨拶をされると返す生徒や特定の人としか挨拶しない生徒が多く、自分から誰にでも挨拶できる生徒は少ない。スカートを短く穿く生徒が増えている。 (2) 校内でのスマートフォン使用で各学年年間10件以上の違反者がいる。登下校中の歩きながらスマホが多い。公共交通機関の利用者から乗車マナーについて注意や指摘を受けることがある。	・生徒会行事に「自主的かつ積極的に参加した」と答えた生徒は95%と多かった。また多くの行事で生徒たちの主体的な活動が見られた。 ・集団の中で自分の意見を伝えたり、共有したりする場面が少なく、学校行事やHR活動、生徒会活動で意見が反映されにくい状況がある。
達 成 目 標	・ 正当な理由のない遅刻の件数 各学年 1日平均2人未満 ・ 身だしなみ（挨拶・服装） アンケート70%以上 ・ 通信機器に関する指導件数 各学年 年間5件以内	・ 生徒会行事に自主的かつ積極的に参加したと感じた生徒の割合 90%以上 ・ HR活動で話し合い活動を行った回数 各クラス 2回以上
方 策	・ 遅刻を繰り返す生徒にはその原因を明らかにさせ改善策を考えさせる。 ・ 生徒会や自律委員会を中心に、身だしなみ、規範意識を高める取り組みを行う	・ 特別活動の目標を各クラスHR委員に伝える。 ・ 生徒や教員から話し合い活動に関するアンケートをとり、情報共有する
	・ HRで規範意識やマナーの向上について話し合いを行う。	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状のまま D：後退した)

重 点 項 目	進路支援	
重 点 課 題	進路意識の高揚 ・進路関係行事の充実（全体への支援） ・面接の充実（個別の支援）	
現 状	・早い時期に受験校を決める生徒がいる一方で、具体的な進路目標がなかなか定まらず、受験期になって慌てる生徒も散見される。また、目標が定まっても、実現に向けた適切な学習行動に移せない場合もあるので、より高い目標を早期に持たせ、自ら挑戦するように進路意識を高める必要がある。そのため、各種進路行事で全体への指導を実施し、必要に応じて面接によるフォローアップを行っている。	
達 成 目 標	1・2学年	3学年
	・進路行事や面接により進路意識が高まり、進路実現に向けた行動がとれたと考える生徒の割合 4段階中3以上…75%	・3年間の進路支援に対して満足だと考える生徒の割合 4段階中3以上…75%
方 策	・HRや総合的な探究の時間を利用して、進路学習や進学講話、進路ガイダンスを生徒の実態に合わせて効果的に実施する。 ・進路関係の行事後のアンケートは、事後の行動目標記入欄を含むものとし、行事が単なる動機付けにならないように工夫する。 ・ICTによるアンケート機能を活用し、教員間で生徒情報の共有を図り、コース選択や進路選択の時期を中心に、必要に応じて面接を実施して、生徒一人ひとりの進路実現を支援する。 ・キャリアガイダンス（職業研究、学部学科研究、模擬授業）は、PTAや地域の各種団体と連携して行い、社会に貢献する姿勢と自己実現に向けての意識を高めるものとする。 ・オープンキャンパス等の受験情報を随時発信し、具体的な行動を促す。	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状のまま D：後退した）

令和7年度 新湊高等学校アクションプラン - 5の1 -		
重 点 項 目	その他（普通科探究活動）	
重 点 課 題	・探究活動の内容の充実化と教師の負担の削減。 ・地域連携によって生徒の主体的に学ぶ力を養う。	
現 状	・総合的な探究の時間をどう進めていけば良いのか各学年が苦心している。 ・進路選択の際に自分のやりたい分野がわからない生徒がいる。	
達 成 目 標	・探究活動が個性の伸長や自らの進路選択について役立ったと感じた生徒の割合	・探究活動において持続可能な取り組みとして行うことのできた生徒の割合
	70%以上	70%以上
方 策	・地域の商工会議所や地元企業と連携して、生徒に富山県や射水市が抱える課題と現在の取り組みについて、現場の生の声を知ってもらう。 ・地域の抱える課題の解決に向けて、地域の商工会議所や地元企業と連携することで多角的な視野を養う。 ・総合的な探究の時間で行った各学年の取り組みをデータとして残して、次年度の参考になるように蓄積する仕組みを作る。 ・外部と連携を図って、探究活動の取り組みやプレゼンについて客観的な評価をしてもらう。 ・担当教員やプレゼンテーションを見ていただいた外部の方にアンケートを実施して、評価をしてもらい、今年度の課題と次年度への活かし方を考える。	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状のまま D：後退した）

令和7年度 新湊高等学校アクションプラン - 5の2 -		
重 点 項 目	その他（商業教育）	
重 点 課 題	・資格取得の充実 ・地域の現状を知り活性化に向けて方策を考察する	
現 状	全商検定1級合格者〔令和6年度実績〕 簿記実務検定 20名 ビジネ計算実務検定（珠算1名 電卓37名） 38名 商業経済検定 31名 ビジネ文書実務検定 30名 情報処理検定（ビジネ18名 プログラミング0名） 18名 英語検定 2名 全商検定三種目以上1級合格者（卒業時） 29名 全商検定1級保持率（卒業時） 100%	
達 成 目 標	(1)全商検定三種目以上1級合格者数（卒業時） (2)全商検定1級保持率（卒業時）	・地域の実情や課題を踏まえ、よりよい社会づくりに向けて、主体的に行動できる態度を養う。
	(1) 28名以上 (2) 100%	
方 策	・3年間を見通し計画的に取り組み、上位検定の取得につなげる。 ・検定試験前に補習を実施し、学習効果を高める。 ・主体的な学びを通して、地域と連携する機会を設ける。	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状のまま D：後退した）